

基本理念(案)

図書館は、たくさんの本との出会いを通して、新たな学びや発見を得られる場所です。また、本を通じて人々が集い、交流を盛んにするとともに、心安らぐ憩いの場所として、すべての人を受け入れる場所でもあります。住民同士だけでなく、観光客等の関係人口も含めた交流が生まれることはまちの新たな発展の可能性にもつながります。柴田町図書館は、新たな本との出会いの場としてだけでなく、人と人をつなぎ、交流を促進し、さらに、まちづくり活動の拠点となることで、地域の新たな文化の創造や地域への誇りや愛着を育むための土壌（グラウンド）となることを目指します。

本と出会い、人をつなぎ、地域を育むグラウンド

～新図書館イメージ～



基本方針(案)

1 誰にでも利用しやすく、心安らぐ居心地の良い図書館

- ① 誰もが自分の好きな使い方でいつでも利用しやすい“居場所”としての機能の充実が必要とされています。
- ② 図書館を普段利用しない人の来館のきっかけとなる魅力の創出も重要です。
- ③ 障害の有無や性別、年齢、国籍等を問わず、誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した整備が求められます。

2 知る・学ぶ・究めるを支援する、基本サービスが充実した図書館

- ① 蔵書数や貸し出しサービスの充実など、図書館の基本となるサービスの充実が重要です。
- ② 正しい情報を取捨選択し、住民の知りたい、学びたい気持ちをサポートするレファレンスサービスは、情報過多な現代においてこそ重要性が増しています。
- ③ デジタル化社会に対応した図書館として、DXによる効率的、効果的な情報の提供が求められます。

3 読書活動を通じて、子どもたちの想像力や心の豊かさを育む図書館

- ① 子どもたちにとって、身近な学校図書館と連携した取り組みの推進が重要です。
- ② 乳幼児期からヤングアダルト世代まで、切れ目のない児童サービスの提供が求められます。
- ③ 子どもの読書のきっかけづくりとして、親子で来館しやすい環境づくりも重要です。

4 自由に人が集まり、交流し、新たな賑わいを生み出すパブリックスペースとしての図書館

- ① 図書館を起点に、人が集まり、交流するパブリックスペースとして、利用者同士の交流や連携を図る必要があります。
- ② 町民だけではなく、町外から来た利用者とも交流・連携を図る必要があります。
- ③ 周辺施設と連携し、『賑わい・交流の拠点施設』としての整備が求められます。

5 公民連携により、地域の未来を育む、まちづくり活動の拠点となる図書館

- ① 人や地域を育むグラウンドとしての図書館を目指し、地域の魅力づくりや地域の課題解決に向けて、生涯学習活動をはじめ、まちづくり活動やまちづくり活動を支える拠点としての機能を強化する必要があります。
- ② 未来に「伝えたい」「残したい」「自慢したい」しぼたの宝ものを大切に守り、伝えていく活動を支援していく必要があります。
- ③ ボランティアやサポーターとして、住民が図書館運営に参画することができる図書館づくりが求められています。